

「奇跡のラブちゃん」巣立ち



岡本校長から卒業証書を手渡される小西菜歩さん(中央)午前10時22分

全身マヒ克服し復学

京都市内の市立中学七十九校で十五日、一斉に卒業式があり、同市西京区下津林の市立桂川中(岡本幸一校長、八百七十七人)では、昨冬、後天性の全身マヒを克服して六年ぶりに復学し「奇跡のラブちゃん」と呼ばれた小西菜歩(らぶ)さん(一五)が、クラスメート二百六十九人とともに、一年余りを過ごした母校を元気に巣立った。

京の中学

もの訓練を粘り強く続け、自由に歩き、英会話も堪能になるなど、見事に障害を乗り越えた。昭和六十三年には「奇跡のラブちゃん」(彩古書房)と題した闘病記録が出版され、読者の感動を呼んだ。

「進学するなら最後のチャンス」という本人の希望で同中二年の三学期から復学。三年に進級してからは、楽しみにしていた九州への修学旅行に参加。自宅から

この日、父親の直樹さん ないかがわかり、自信につ(四五)が見守る中、岡本校長 一年を振り返っていた。(四五)が見守る中、岡本校長 一年を振り返っていた。から卒業証書を受け取った 菜歩さんは生後一か月で菜歩さんは、「この一年間 中脳に障害が起き、全身マヒは充実していて、まるで六ヒに。米国の博士が唱える年分ぐらいに長かった。修「ドーマン法」という家族学旅行は一番の楽しい思い ぐるみの訓練に取り組むた出。初めて親と離れてみて、め、同市立川岡小を三年か自分には何ができ、何ができら休学。一日十五、六時間

約一時間の登下校も、当初四十分かかったのが、今では十五分で歩けるように。六年間のプランクを取り戻すため、自宅での勉強に励み、念願の高校受験も果たして、十六日の発表を待つて

「6年分あった1年間」